

|     |             |        |                                        |
|-----|-------------|--------|----------------------------------------|
| 7 月 | 豊川 愛護モニター報告 | モニター区間 | 豊川：左右岸 6.2km～17.8km<br>管轄出張所：豊川流域治水出張所 |
| 実施日 |             | 実施区間   | 吉田大橋～賀茂橋                               |

7月の初めに梅雨が明け、早くも真夏のような暑さがはじまった。その中でも堤防の除草作業が続けられている。今年は8月までかかりそうな気配だ。炎天下除草作業に従事する人々にはほんとうに頭が下がる。

夏といえばセミと言いたいところなのだが、セミの声が鳴り響くのは7月中旬以降。今年は例年よりもやや遅く、下旬になってようやく河畔林からセミの大合唱が聞こえるようになった。一方7月上旬から聞こえ



てくるのは虫の声。堤防の草むらのそこここからキリギリスの鳴き声が聞こえてくる。虫の声といえば秋のイメージだが、実際はセミよりも早く鳴き始めている。そういえば、秋の七草の一つ、カワラナデシコも7月上旬には咲きはじめている。ひと足早い秋の気配と言いたいところだが、セミも鳴いていないのに秋の気配、というわけにもいかない。現実の自然は歳時記どおりにはいかない。

豊川では河畔林、特に竹林の伐採を行っている。河畔林はそれ自体も豊川の風景を構成しているので、あまり伐採して欲しくないなあという気持ちがある一方で、大雨のあとに、流木が引っかかっているのを見ると、やはり伐採が必要なのかと考えざるを得ないこともある。ただ、竹林に関しては、数年前の写真と比較すると、こんなに生い茂ったのかと驚いてしまうくらい成長することも珍しくない。しかも流木の中で竹はかなり多い。

現在河畔林の伐採作業は下条橋近辺で行われている。



2023年6月2日の集中豪雨のあと。随所に流木が堆積していた。

よく見ると、河畔林の伐採だけでなく、河川敷の掘り下げ工事も行われているようだ。どのような作業結果になるのか、注目していきたい。



7月17日、下条橋近辺。それほど雨が降ったわけでもないのに、伐採したあとにかなりの水がたまっていた。伐採がなければここにも流木がたまっていた可能性がある。

